

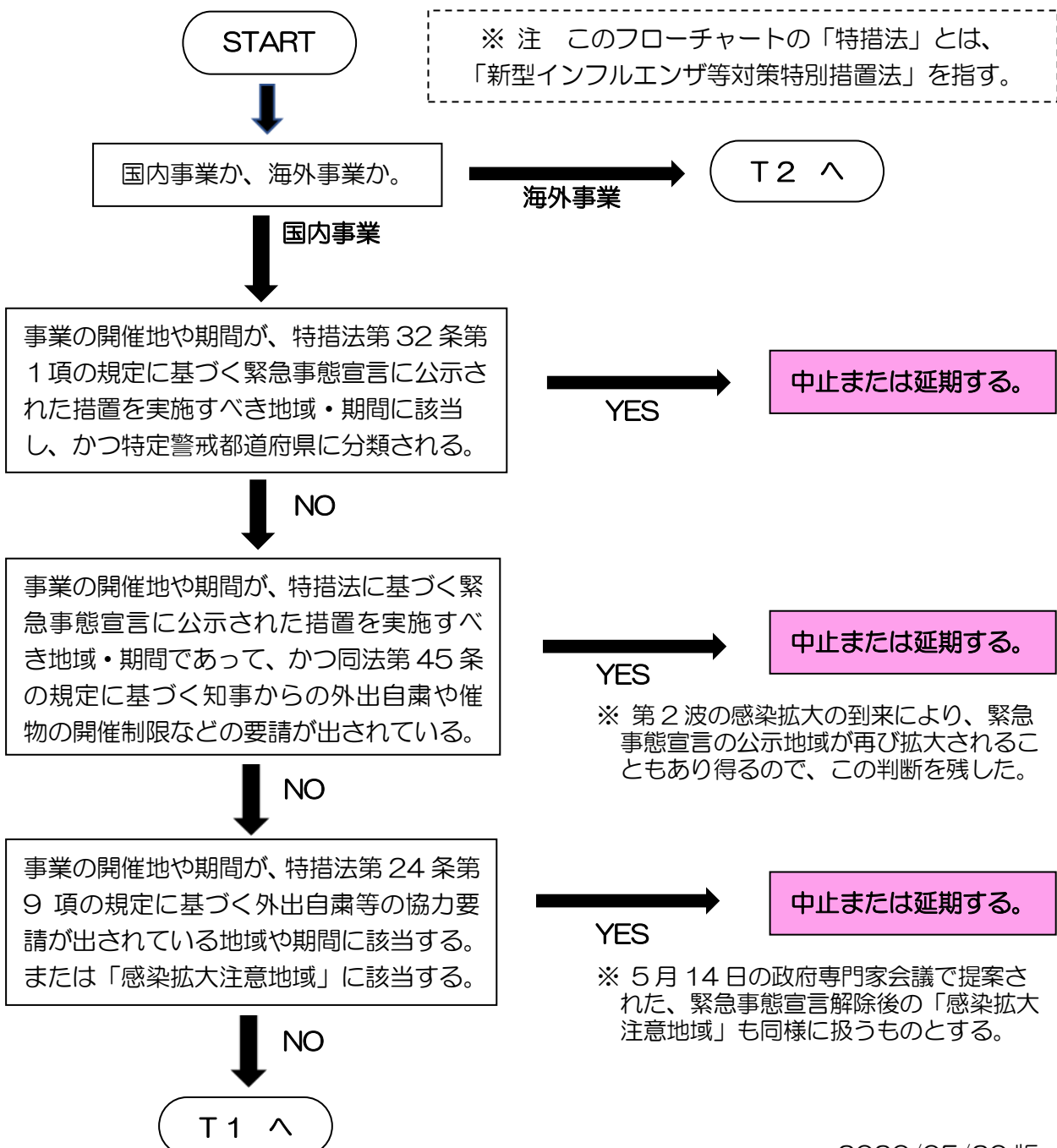
新型コロナウイルスの感染防止に関する大会等の実施基準

公益財団法人 日本アイスホッケー連盟

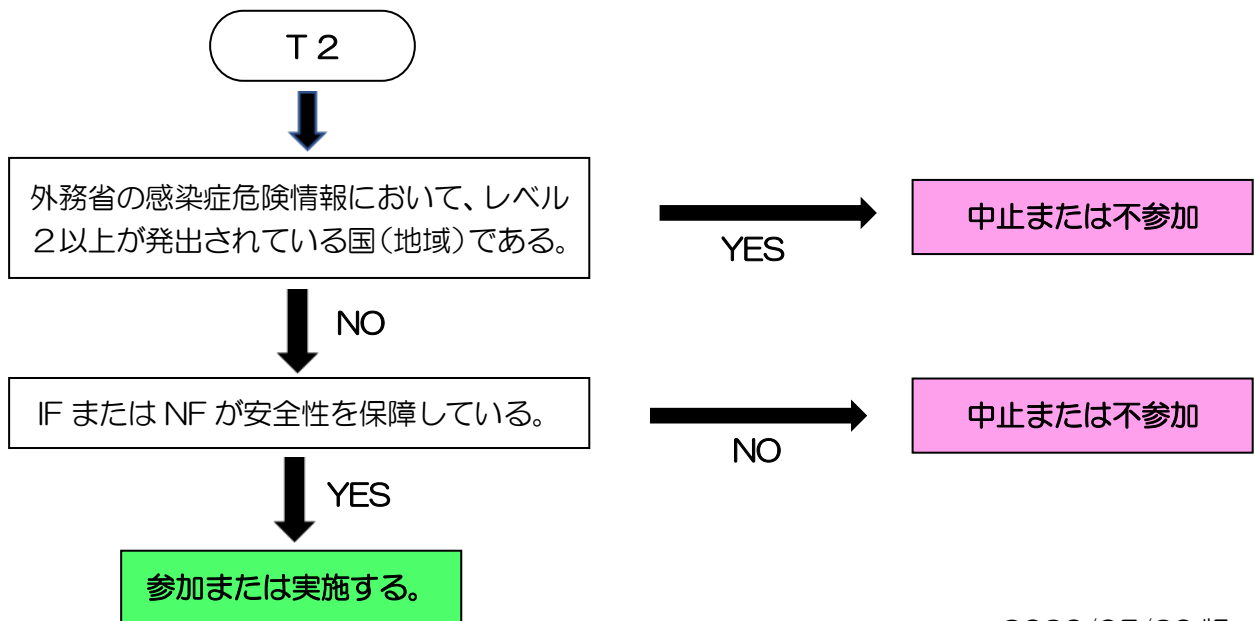
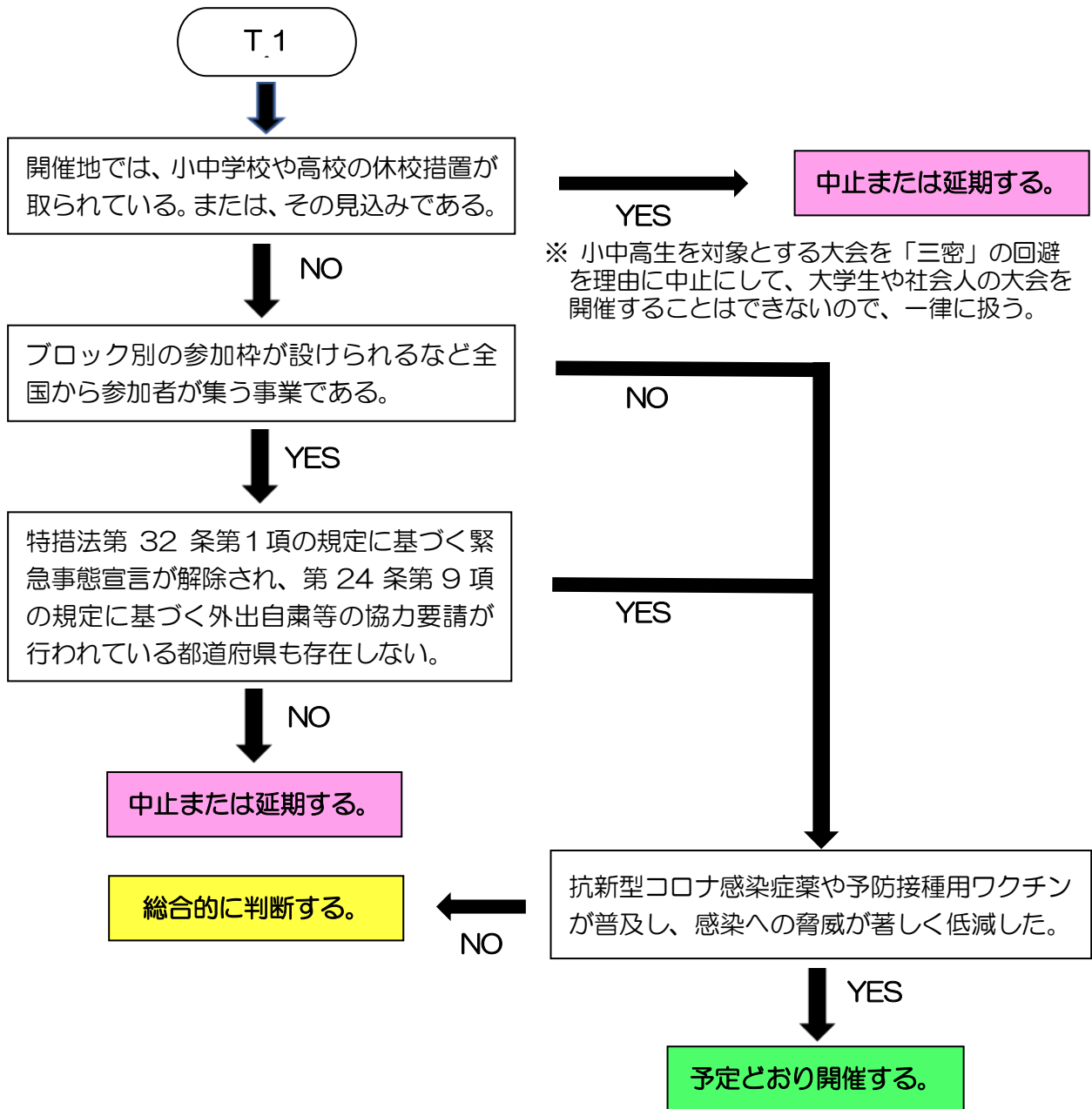
国内における新型コロナウイルスの感染は収束傾向にあり、5月14日には緊急事態宣言の対象地域が8都道府県に縮小された。しかし、第2波、第3波の感染の再燃が懸念されることなどから、解除された地域においても慎重な対策が講じられている。

アイスホッケー競技会等の開催に当たっては、都道府県ごとに感染状況が異なり、感染防止への対応も様々であることに鑑み、下記フローチャートに基づき、原則として予定時期の2か月前までにはその是非を判断することとする。

なお、加盟団体所属チームの練習等の実施については、下記の「大会開催における留意事項」や別紙「安全にアイスホッケー活動に戻るためのロードマップ／IIHF」を参考に地域の実情に応じたガイドラインを設定され、その是非を判断していただきたい。



2020/05/20版



大会開催における留意事項

このガイドラインは、あくまで目安であり、新型コロナウイルスの感染状況が日々変化している中では、その状況や地域の実情を踏まえて、臨機応変に対応していただきたい。

また、アイスホッケーは、リンク上での接触プレーが避けられず、プレイヤーズベンチや選手控室での密集も避けられない競技である。大会を開催する際には、このことを深く自覚し、可能な限り、下記留意事項を遵守していただきたい。

1 基本的対策

- ① 参加選手、同伴者、観戦者等に対し、マスクの着用並びに手洗い・アルコール消毒など手指衛生を周知徹底する。
- ② 会場の出入口及び大会本部等にアルコール消毒剤や非接触型体温測定器を備える。
- ③ 発熱等の症状が見られる参加選手、同伴者、観戦者等に対し、会場への入場を見合わせるように周知する。
- ④ 新型コロナ対応を含めた Emergency Action Plan（緊急時対応計画）を準備する。

2 大会運営

- ① 開会式や監督会議など、多人数を一定時間、同じ空間に拘束する催しは行わず、印刷物の配布や電子メールでの配信等によって省略する。
- ② レフェリー等による対戦チームのユニフォーム合わせは、事前に写真を送ることなどにより省略する。
- ③ 印刷物を配布する担当者は、特に手洗いやアルコール消毒に努める。
- ④ 大会本部に充てている部屋は、可能な限り、消毒と換気に努める。
- ⑤ 怪我等の応急措置に備え、救護室または大会本部に使い捨て手袋やマスクを常備する。
- ⑥ 大会の一環としての集客イベントや、おもてなしとしての飲食物の提供は行わない。
- ⑦ 関連行事としての懇親会や慰労会は開催しない。
- ⑧ 関係者以外の観戦は、特に高齢者の観戦を控えてもらう。
- ⑨ 関係者であっても、近接しての観戦や声を出しての応援は控えてもらう。

3 競技運営

- ① 試合終了後の握手はしない。素手でのハイタッチもしない。
- ② リンク上やプレイヤーズベンチ内などでは、唾を吐かない。
- ③ プレイヤーズベンチでは、可能な限り近接して座らない。
- ④ スクイズボトルやタオル等の使いまわしは絶対にしない。
- ⑤ チームスタッフは、常時マスクを着用する。
- ⑥ レフェリーやラインズマンは手袋を着用し、ピリオド終了ごとに手洗い・うがいを行う。
- ⑦ オフィシャルボックスやペナルティボックスの競技役員は、常時マスクを着用するとともに、換気やドアノブ・電光掲示操作盤などの消毒に努める。
- ⑧ 選手控室に充てている部屋は、可能な限り、消毒と換気に努める。
- ⑨ 更衣室など人の密集する部屋の利用は、可能な限り短時間に抑えるとともに、時間差を設けて使用するなど過密にならないように留意する。
- ⑩ 自動車利用者は、可能な限り着替えは自宅で行い、選手控室（更衣室）では行わない。
- ⑪ 試合後には、ヘルメットやクラブ、スティック、スケート靴など他人の飛沫が付きやすい用具の消毒、ジャージやストッキングなどの洗濯を行うように注意喚起する。

2020/05/20 版